

日本堆積学会2007年つくば例会を振り返って —国際惑星地球年 (IYPE) 参加の特別企画 (普及講演会) 実施される!—

徳橋 秀 一¹⁾

1. はじめに

日本堆積学会と産業技術総合研究所(以下,産総研)地質調査総合センターとの共催による日本堆積学会2007年例会が,2007年3月27日(火)~3月31日(土)にかけて,つくば市中心部のつくばカピオほかで実施され,無事に終了しました.日本堆積学会の例会は,年に一度,全国の会員が集まって日頃の研究成果を発表する個人講演発表会と新年度の学会運営の基本方針などを討議し決定する総会という二大行事を核に,毎年春に堆積学会の会員がいる全国の大学や研究所などで開催されています.今年は産総研や筑波大学のあるつくば市で開催されましたので,2007年つくば例会と呼ばれています(以下では,つくば例会と呼びます).私は,実行委員長として本例会に携わりましたが,IYPE参加普及講演会を始めとするいくつか新しい試みもなされましたので,今後の参考のために,準備した側の立場から本例会を振り返ることにします.まず,つくば例会で行われた主な行事を第1表にまとめました.

2. つくば例会の特徴

今回のつくば例会の主な特徴として,①日本堆積学会と産総研地質調査総合センターとの共催で実施したこと,②日頃学会開催の際によく使っている産総研つくばセンター中央の共用講堂ではなく,つくば市中心部にある市の関連施設であるつくばカピオのホールをメイン会場としたこと,③国際惑星地球年(International Year of Planet Earth: IYPE)2007-2009が始まったことから,その活動参加の特別企画として,一般市民向け普及講演会「地層から読み解く地球環境:過去から学ぶ地球環境の現在と未来」を実施したこと,④つくば例会の独自企画であるショートコースと巡検は,産総研に採用されて間もない若手の研究者が中心になって企画・実施したものであり,大変人気が高かったこと,などをあげることができます.つくば例会で発表される講演の要旨をまとめた要旨集の表と裏の表紙のデザインにも,日本堆積学会とともに産総研と地質調査総合センターのロゴマークが入ったり,IYPEのロゴマークが入ったりと,今回のつくば例会の特徴がよく表われています(写真1).

第1表 つくば例会の主な行事日程.

3月27日(火) 午前9時半~午後2時	産総研第7事業所第2会議室
ショートコース「泥質な開析谷充填堆積物の見学会—埼玉県中川低地の沖積層コアを題材に—」	
3月27日(火) 午後3時~午後6時半(午後2時開場)	つくばカピオ(ホール)
普及講演会「地層から読み解く地球環境:過去から学ぶ地球環境の現在と未来」	
3月28日(水)	午前9時30分~(午前9時開場)
個人発表(口頭・ポスター),特別講演,総会,懇親会 つくばカピオ(ホール)	
3月29日(木)	午前9時20分~(午前9時開場) つくばカピオ(ホール)
個人発表(口頭・ポスター),最優秀発表表彰式,堆積学トーク・トーク	
3月30日(金)~3月31日(土)	
巡検「千葉県九十九里浜およびその周辺の海浜と堆積物」	

1) 産総研 地圏資源環境研究部門

キーワード:日本堆積学会,2007年つくば例会,つくばカピオ,国際惑星地球年,IYPE,普及講演会

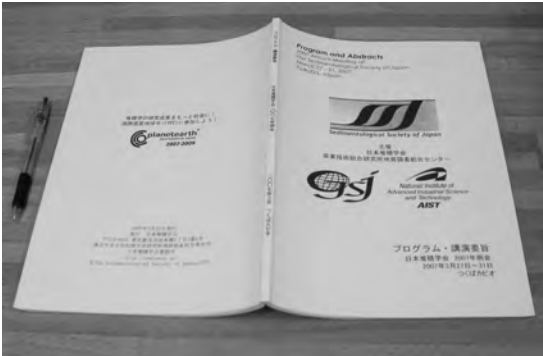


写真1 つくば例会要旨集カバーのデザイン。



写真2 普及講演会当日のつくばカピオホールの正面。

昨年3月下旬、大阪市立大学を中心に実施された堆積学会大阪例会で、次回開催地がつくばと決まったことを受け、昨年4月にはつくば例会の準備と実施のため産総研地質調査総合センターに属する堆積学会会員の有志からなる実行委員会をつくり、5月初めの連休明けに第1回実行委員会を開催して準備がスタートしたといえます。3月27日・28日のつくば例会本番の行事の企画や準備は堆積学会の行事委員会が中心になって行いますが、その他の行事(ショートコース・普及講演会・野外巡検など)の企画・準備・実施および会場の手配と運営はつくば例会の実行委員会が行いました。特に、事務局長の田村 亨氏とその補佐役として書記・会計を担当した小松原純子氏を中心になって活躍されました。



写真3 普及講演会会場を示すポスター。

3. 普及講演会の実施

3.1 普及講演会実施の経緯

今回のつくば例会を対外的に最も特徴づけたのが、3月27日(火)午後開催されたIYPE参加特別企画の普及講演会「地層から読み解く地球環境：過去から学ぶ地球環境の現在と未来」の実施でした。本普及講演会は、2007年1月22日(月)に、東京大学小柴ホールにおいて、シンポジウム<「国際惑星地球年2007-2009」国際惑星地球年開催宣言式典>が開催されたのを受けて、本つくば例会でもIYPE活動に参加するような活動はやれないだろうかという問合せが堆積学会の松本 良会長からあり、それを受けてつくば例会実行委員会で急遽企画したものでした。産総研地質調査総合センターに所属し、堆積学会で活躍している会員3人(斎藤文紀氏、池原 研氏、七山

太氏)の話題を核に、それに、国際惑星地球年を国連に提案した国際地質科学連合(IUGS)の評議員でもある日本堆積学会の松本 良会長による開会のあいさつと日本IYPE国内委員会委員長でもある産総研地質調査総合センターの佃 栄吉代表によるIYPEの概要紹介を加えて、普及講演会を構成することにしました。また、つくばカピオのホールについては、翌日からのつくば例会本番の会場づくりのためにその前日から借りていたこともあって、3月27日午後につくばカピオのホールで行うことにしました。つくばカピオはつくば市の中心部にあり、また、つくばエクスプレスの終点であるつくば駅から徒歩5、6分のところにあることから、普及講演会の会場としては申し分ないといえます(写真2, 3)。

ただ一方で、限られた事前申込者を対象とすると

第2表 普及講演会「地層から読み解く地球環境：過去から学ぶ地球環境の現在と未来」のプログラム。

15：00-15：10	開会あいさつ	日本堆積学会会長 松本 良
15：10-15：30	「地球のことをもっと知ろう：国際惑星地球年IYPEが始まった」	日本IYPE国内委員会委員長
		産業技術総合研究所地質調査総合センター代表 佃 栄吉
15：30-16：20	「巨大津波の痕跡を探る！」	産業技術総合研究所 七山 太
	休憩(16：20-16：40)	
16：40-17：30	「海底堆積物に記録された環境変動」	産業技術総合研究所 池原 研
17：30-18：20	「アジアの巨大三角州の生い立ちと近年の変貌を探る」	産業技術総合研究所 斎藤文紀
18：20-18：30	総合討論及び閉会あいさつ	産業技術総合研究所 徳橋秀一

はいえ、ショートコースが当日の午後、産総研のつくばセンター(中央第7の第2会議室)でやるのが既に計画されていたこともあり、それをどうするかが議論され、結局、ショートコースの実施時間を変更して、午前から午後の初めにかけて行い、普及講演会は午後の後半から夕方にかけて実施することにしました。ショートコース事前申込者(約20名)には、担当者から実施時間変更を連絡して了解してもらうことにしましたが、皆さんには快く了解していただきました。こうした経緯を経て、第2表のようなプログラムで普及講演会が実施されました。

3.2 普及講演会の参加者

普及講演会は、堆積学会本番の前日の午後と同じ会場で行われることから、堆積学会の会員にもできるだけ多く参加していただくようお願いしましたが、第一義的には、一般市民向けの普及講演会であることから、いかに多くの市民の方に参加していただけるか、そのために如何に多くの人に本普及講演会の開催を知ってもらうかが大きな課題でした。本普及講演会を中心になって準備した実行委員の斎藤文紀氏は、本普及講演会のビラ(簡易ポスター)を作成して市内の各所に配布し、それを見た新聞記者からの問合せに答えて新聞記事に載せてもらうなど、いろいろ尽力されました。また、同じく実行委員の七山 太氏は、上記の簡易ポスターをカラフルな大判のポスターに作り変え、許可を得た上で、つくばエクスプレスつくば駅の構内に掲示し多くの人の注目を集めました。このような経緯や準備を経ながら、普及講演会の開催に至りました。

普及講演会当日は、やや寒い曇り空でしたが、開

始時間の午後3時近くになると参加者が詰めかけました。受付の参加者名簿に記入された方は96名でしたが、グループで来られてお一人が代表で書かれたという場合もあったということで、参加者は約100名というところでしょうか。参加者の構成ですが、受付の名簿によりますと、地域別では、つくば市38名、茨城県10名、千葉県13名、東京都10名、埼玉県3名、その他22名、階層別では、一般68名、大学院生16名、大学生9名、高校生1名、中学生2名、小学生0名、堆積学会の会員51名、非会員45名ということになりました。

3.3 普及講演会に対するアンケート結果について

本普及講演会の感想や今後の要望などを書いてもらうアンケート用紙を受付で参加者にお渡ししましたところ、40名余りの方から回答がありました。ここでは、それらを基に普及講演会を振り返ってみます。

<IYPEの紹介について>

佃氏によるIYPEに関する紹介では、特に地質の日の設定やジオパークに関する話題が印象に残ったようです(写真4, 5)。また、IYPEのホームページ(<http://www.gsj.jp/iype/at/iy/index.html>)についての紹介があったことから、ホームページを見ながらIYPEについてさらに理解を深め、今後の活動の参考にしたいというコメントもありました。IYPEについては、始まったばかりということもあって、堆積学会会員でも知らない人が多く、本普及講演会が、専門家も含めてそれに対する理解を深めるひとつの重要な機会になったものと思います。

<地層に関する話題について>

その後の3つの具体的な話題(写真6, 7, 8)につい



写真4 国際惑星地球年について講演する佃 栄吉氏。



写真6 津波堆積物について講演する七山 太氏。



写真5 地質の日について説明する佃氏のスライド。



写真7 海底堆積物から地球環境変動について講演する池原 研氏。

ては、わかりやすく大変勉強になったという意見が大学や研究機関からの参加者のほぼ共通した意見でしたが、一方で、一般の人や中・高校生には、したがって普及講演会としては、少し難しかったかもしれないという指摘も多くありました。また、一般の人の参加が多いとはいえなかったことから、広報の仕方や週末の開催といった一般の人の参加を促すための提案も多くみられました。さらに、後で復習できるように、話題に関係した資料の配布があった方が良かったという指摘もありました。地層を通して過去の歴史を学ぶことの重要性はわかったが、今後被害を少なくするために具体的にどうするのかという点の話があまりなかったという厳しい指摘もありました。その他、日頃気にしていない話題提供者の話すときのくせに関する指摘などもありました。こうした厳しいあるいは教育的



写真8 アジアの巨大三角州について講演する斎藤文紀氏。

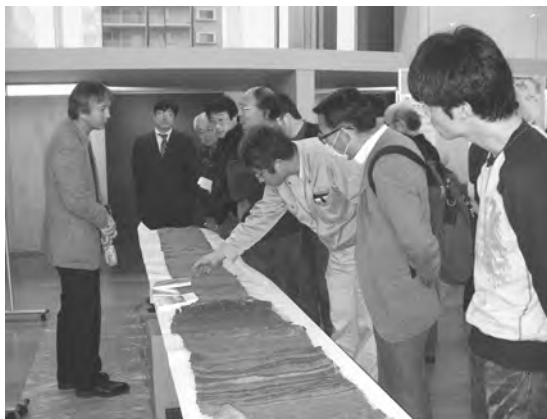


写真9 実際の津波堆積物を前に参加者と議論する七山太氏(左側)。



写真10 休憩時間におけるカピオホールの客席風景(目代邦康氏撮影)。

な指摘、指導は、講演当事者を含め関係者の今後の取り組みに大いに参考になるものでした。一方、津波堆積物の話題を提供した七山氏の講演の後の長めの休憩時間には、話の中で紹介された津波堆積物の現物の試料を前にして、七山氏と参加者の間で熱心なやりとりがありました。こうした現物の展示は参加者の理解と関心を深める上で大いに効果があったと確信しています(写真9)。

<会場(カピオのホール)について>

会場については、全体が暗い上にテーブルがないのでメモがとりにくかったとか、椅子の前が狭く横への移動がしにくかったという指摘が複数ありました(写真10)。本来が演劇用のホールなので会議などにはあまり適していない上に、照明をこちらの不慣れな人間が担当したために十分配慮できなかったのが原因でした。また、会場が少し寒いという声が特に年配の方から聞こえましたので、休憩時間から暖房を入れるようにしました。ただ、天井が吹き抜け構造であるために暖かくなるのに少し時間がかかったといえます。実は、暖房費用がホールの使用料と同じくらいかかるので、最初から暖房を入れることは避け参加者の反応をみてから判断したのですが、その背景には予算上の事情がありました。蛇足ながら、翌日からのつくば例会本番(28日、29日)は、暖かくて暖房が不要でした。このことが、つくば例会全体の収支が赤字にならなかったひとつの重要な要因となりました。

<今後希望する講演>

アンケートの最後に今後希望する講演のテーマ等

を書いていただいた結果、化学合成生物、日本の森林荒廃問題と今後の予測・対策、つくば市を中心に関東地方を中心にする講演、化学堆積岩(チャートや炭酸塩岩など)から古海洋の性質を推定する研究の成果、一般の人向けに茨城県又は毎年の堆積学会開催地の成り立ち・地質学的な歴史等を話す講演会、自然の営力と人間活動の相互作用に視点をおいた講演、鉱物がらみの話、quality of earthについて、地質図の話、関東地方の地質、津波に関する研究についての講演、といった要望がありました。

このようにアンケートには、今回の普及講演会についての印象や感想、コメント、そして今後の要望や提案などが書いてあり、関係者にとってはいろいろと参考になりました。

4. 堆積学会つくば例会本番

研究発表や総会などのメインの催しが行われる堆積学会つくば例会本番は、3月28日(水)と29日(木)に開催されました。両日も天候に恵まれ、つくばカピオの前の桜も急速に開花して三分咲きくらいの暖かい日差しの下で実施されました(写真11)。つくば例会への参加者は、一般会員70名、学生会員39名、非会員6名、オブザーバー2名の合計117名でした。ちなみに、日本堆積学会の会員数は、一般会員(シニア会員含む)が約430名、学生会員が約100名ということです。オブザーバーというのは、つくば市報に掲載されるつくばカピオの行事日程などを見て、堆積学会例

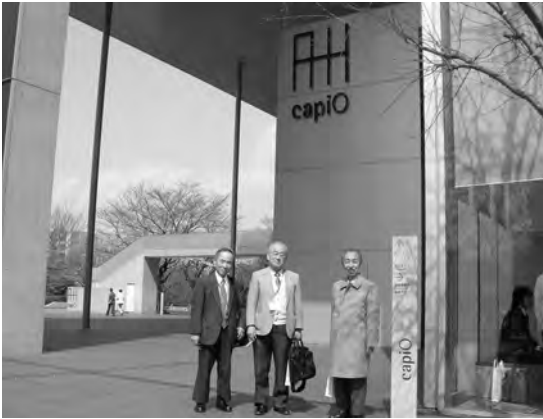


写真11 晴天に恵まれたつくば例会本番初日。左から、盛谷智之、水野篤行、志岐常正の大先輩諸氏。



写真13 発表者と参加者の間で熱心なやりとりが行われているポスター発表の一場面。

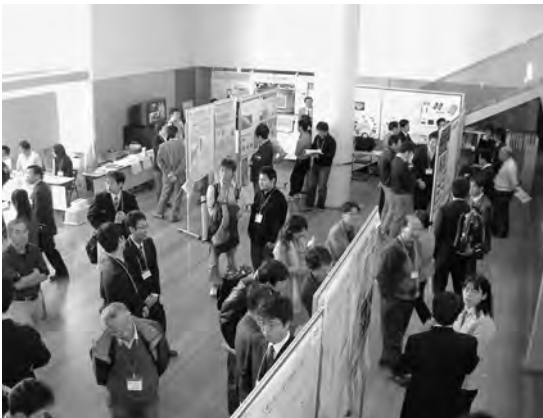


写真12 ホール前のホワイエでのポスター発表風景。突き当たりの2件は、企業展示コーナー。



写真14 最優秀講演賞の授賞式。

会というものがどういったものなのか一度のぞいてみたいといった一般の市民の方の参加希望者(見学者)を想定して今回新しく設定したもので、講演要旨集を希望しない人は入場無料としました。

2日間で口頭発表27件(キャンセルの1件は除く)、ポスター発表31件の発表がありました(詳しくは、日本堆積学会のホームページ[<http://sediment.jp/>]をご覧ください)。所定のボードへのポスターの掲示は2日間通しなのですが、著者らによるポスター発表(ポスター前での説明)は、奇数番号が第1日目、偶数番号が第2日目と半々ずつ行われました。両日とも、1件約2分で各発表の核心や見所を説明するポスター発表ショートトークがまとめて行われ、その後に、1時間半のポスター発表へと移りました(写真12, 13)。口頭発

表、ポスター発表とも、発表内容、発表技術ともに全体のレベルが毎年向上しているというのが、行事委員長である武藤鉄司長崎大学教授の感想でした。2日目の夕方には、主に若手を対象にした堆積学会恒例の最優秀口頭発表賞、最優秀ポスター発表賞の授与式が行われましたが、短い時間に審査結果の集計や賞状の作成などをやらなくてはならず、担当の行事委員などによる裏方の作業も大変だったようです(写真14)。表彰式終了後には、2日間の最後の催しである堆積学トーク・トーク「シャベロントロジー2」が実施されました。本催しでは、現在活発に活動している若手10名が壇上に上がって自由なテーマでパネルディスカッションを行いました(写真15)。観客席の中堅、年配組も議論に加わって、研究発表とは異なった雰囲気



写真15 新進気鋭の若手10名による堆積学トーク・トーク「シャベロントロジー2」の一場面.



写真17 70名が参加した懇親会の一場面.



写真16 特別講演中の著者(目代邦康氏撮影).

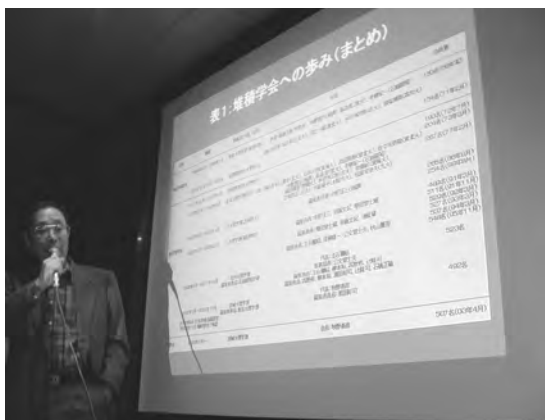


写真18 堆積学会のあゆみを説明する大先輩の青柳宏一氏.

気で大変熱心な議論が行われ、2日間の例会の最後を飾りました。ポスター発表が行われたホール前のホワイエの一角では、企業展示コーナーも開設されました。参加されたのは、ジーエスアイ株式会社と石油資源開発株式会社の2社でしたが、展示料を払っていただきましたので、つくば例会の収支が赤字になるのを避ける上で役立てることができました。

初日の個人発表終了後には、実行委員長の徳橋による約50分の特別講演「タービダイトの話(続編): turbidity currentやturbiditeの定義をめぐる最近の混乱に如何に対処するか-混乱の現状とその原因,用語誕生の歴史的経緯,解決に向けた一試案-」が行われましたが、内容がわかりやすかったと好評だった

ようです(写真16)。ただ内容が多岐にわたっていたこともあり、復習用に、講演で使ったパワーポイントのpdf版を収めたCD-Rが希望者に配られました。その後、総会が約1時間開催され、それが終了した夕方の6時半頃から、懇親会が始まりました。

5. 懇親会

懇親会は、カピオのすぐ隣にあるカフェレストランのベルガで行いました。当日の申込も加えて約70名が参加したために、立錫の余地もないほどのむんむんした熱気の中で行われました(写真17)。堆積学会の懇親会は単に飲むだけでなく、途中パワーポイントを



写真19 日本海のハイドレートに関する最新の成果を説明する松本 良堆積学会会長(七山 太氏撮影)。



写真20 大先輩諸氏の話に聞き入る参加者一同(七山 太氏撮影)。

使った話題提供もあるという大変まじめな懇親会です。話題提供は、まず堆積学会の大先輩にあたる青柳宏一会員から、若い人に是非伝えておきたいということで、堆積学会の前身である堆積学研究会の設立前後の話題が紹介されました(写真18)。その後、引き続いて、出席した大先輩数名がその内容を補足(修正?)されましたが、その中には、旧地質調査所の元海洋地質部長の水野篤行氏や中尾征三氏が含まれています。また同じく元海洋地質部長の盛谷智之氏には、懇親会の乾杯の音頭をとっていただきました。また、こちらも大先輩にあたる京都大学元教授の志岐常正氏も青柳氏の話に加わっていただきました。こうした大先輩諸氏のお話の後には、松本 良堆積学会会長から、日本海の海底から噴出するメタンハイドレートの巨大なプルームをとらえた大変ホットな話題が映像とともに提供されました(写真19)。

このように新旧の会員が集まり交流を深めました。特に大先輩の会員が気炎を上げた懇親会でした。当初、70人もの参加者が狭い会場に集まってわいわいやる懇親会場で、話の内容がうまく伝わるか疑問視する向きもありましたが、細長い会場の真ん中にスクリーンを配置し、大型のスピーカーとマイクも用意されたことから、大部分の人の注目を集めながら実施することができました(写真20)。テーブル、スクリーン、プロジェクター、スピーカーの配置などの会場づくりは、産総研の広報部に所属し、前にサイエンスカフェを同じ会場で行ったことがあるという実行委員の目代邦康氏が担当されましたが、その経験が十分活かされた

いえます。またベルガの関係者も、我々のかなり無理なお願いに快く応じていただきました。

6. ショートコースおよび野外巡検について

3月27日(火)に開催されたショートコース「泥質な開析谷充填堆積物の見学会-埼玉県中川低地の沖積層コアを題材に-」は、実行委員の田辺 晋氏が中心になって企画・実施しました(写真21, 22)。また3月30日(金)・31日(土)に開催された野外巡検「千葉県九十九里浜およびその周辺の海浜と堆積物」は、実行委員の田村 亨氏が中心になって企画・実施しました(写真23, 24)。お二人とも、産総研に採用されて間もない若い研究者であり、最新の研究成果や考え方を披露し議論するために企画したものです。いずれも、昨年12月に、堆積学会事務局から全国の会員につくば例会の案内がメルマガで出されて間もなく定員一杯になるという大変人気の高い企画でした。このことは、こうした企画に対する要望・需要が高いことを示していると考えられます。実際に実施した上での参加者の反応、感想も大変良かったようです。今回の経験をもとに、今後こうした企画をより本格的な形で実施していくならば、産総研がこうした面での社会の需要に応えるひとつの核、センターに成長していくことも夢ではないと考えています。そういう意味でも、今回のこれらの催しの積極的な提案と実施は、つくば例会を実り豊かなものにするとともに、将来へのひとつの新しい夢を持たせるものでした。是非、そ



写真21 ショートコース前半に行われた講師によるレクチャー風景(目代邦康氏撮影).



写真23 九十九里浜での巡検風景.



写真22 実際の沖積層堆積物(剥ぎ取りサンプル)を例にした説明風景. 説明しているのは、講師の一人の福岡大学の石原与四郎氏(山口正秋氏撮影).



写真24 九十九里浜北端の飯岡海岸を見下ろす屏風ヶ浦台地の上で撮った集合写真. 左端から5人目と6人目が、案内者の井上卓彦氏と田村 亨氏.

ういった方向でがんばって行ってほしいと思います.

7. 会場のつくばカピオのホールについて

今回は、産総研つくばセンターの共用講堂を使うのではなく、参加者の足の便を第一に考えて、つくばエクスプレス(TX) 終点のつくば駅に近い市中心部のつくばカピオのホールを会場としました。その結果、準備に費やした実行委員のエネルギーの大半は、この慣れないまた会議用ではない演劇用の会場を使用したことと関係していたといえます。たとえば、舞台上の200インチのスクリーンに映像を送り出す大型のプ

ロジェクターや映像を操作するパソコンなどは会場に無く、持ち込んでセットしなければなりません。また、ホール前のハワイエで実施したポスター発表用のボードもすべて持ち込まなければならませんでした。これらの物品のほとんどは、産総研地質調査総合センターに所属する部門やセンターおよび第7事業所が所有するものをお借りして使わせていただきました。なお、受付などで使うテーブルや椅子、壇上で講演者や司会者が演壇などはカピオのホール備え付けのものを使うことができますが、その多くはそう高くはないとはいえ有料です。

つくば以外からの参加者、特にTXを使う人にとっ

ては便利でまた独特の雰囲気も楽しめる会場でしたが、準備する実行委員会にとっては、その労力は共用講堂を使ったときの数倍～10倍近くになったのではないのでしょうか。そのため、つくばカピオを会場に選んだことが本当に良かったのかどうかは、自分達で選んだのですが、最後まで疑問として残りました。ただ、当初は予定していなかった一般市民向けの普及講演会を実施することになったことから、結果的には、市中心部のつくばカピオで行ったのは正解であったといえるかもしれません。また、当初、つくばカピオの使用にともなう会場費や各種設備・備品の使用料によりかなり赤字が出るのではないかと心配しましたが、結果的には赤字を出さなくて済みました。実行委員の各種工夫・労苦・努力と関係者の協力が報われたものと思います。いずれにせよ、今回つくばカピオでつくば例会を行ったことは、実行委員会にとってはいろいろと貴重な経験を積むことになりました。そして、年度初めのばたばたがようやく落ち着いた4月18日に反省会(総括)と打上げを行い、約1年にわたった実行委員会の活動が終了しました。

8. おわりに：お礼

最後に、本つくば例会実施にあたりましては、準備の過程でつくばコンベンションビューロー(つくばCB)を始めとする多くの機関、個人からご協力を得まし

た。ここに厚くお礼を申し上げます。特に、地質調査情報センター地質調査企画室長の佐脇貴幸氏には、実行委員会の活動を側面から積極的に支援していただきました。ショートコース実施にあたっては、石原与四郎(福岡大学)・中島 礼(産総研)・稲崎富士(土木研究所)の諸氏に講師に加わっていただきました。また、つくばカピオでの会場の設営と運営にあたっては、産総研の荒井晃作、鈴木祐一郎、辻野 匠、中澤 努、中島 礼、宮地良典、渡辺真人の各氏(50音順)を始めとする多数の方のご協力を得ました。心からお礼を申し上げます。本報告にまとめるにあたっては、産総研の目代邦康氏、七山 太氏、山口正秋氏撮影の写真も使用させていただきました。記してお礼を申し上げます。

なお、日本堆積学会2007年つくば例会実行委員会のメンバーは次の方々です。皆様、大変ご苦勞様でした。

徳橋秀一(実行委員長)、田村 亨(事務局長)、小松原純子(書記・会計)、斎藤文紀、池原 研、七山太、片山 肇、田辺 晋、井上卓彦、中嶋 健、目代邦康(順不同)

TOKUHASHI Shuichi (2007) : Report on the 2007 Annual Meeting of Sedimentological Society of Japan held from March 27 to March 31 at Tsukuba.

<受付：2007年5月11日>